

今回改正により国内希少野生動植物種に追加しようとする種の概要 別紙

種名 (学名)	指定理由 (生息・生育状況等)
<p>ダイトウオオコウモリ (<i>Pteropus dasymallus daitoensis</i>)</p>	<p>種の特徴：大型のコウモリ。夜行性で、昼間は林内で休止し、日暮れ前から活動を開始する。花や果実を餌として利用している。</p> <p>分布域：日本固有亜種。個体数は、100頭から160頭程度。</p> <p>減少要因：土地改良事業などの生息環境の改変が圧迫要因。また、ニホンイタチ、ノイヌ、ノネコによる捕食や、外来ヤシの葉に絡まる事故死が本種の減少に直接の影響を与えている。</p>
<p>アマミノクロウサギ (<i>Pentalagus furnessi</i>)</p>	<p>種の特徴：四肢が短く、爪は強力で穴掘りに適している。夜行性。斜面に生える大木の根本などに長さ3～4mの巣穴を掘る。植物食で草木の葉、果実を食べる。</p> <p>分布域：奄美大島と徳之島に生息する日本固有種。個体数は、奄美大島で3,500頭、徳之島に200頭程度。</p> <p>減少要因：森林伐採、道路建設及び土地利用転換などにより生息環境が悪化したことが圧迫要因。また、マングース、ノイヌ、ノネコによる捕食が本種の減少に直接の影響を与えている。</p>
<p>アユモドキ (<i>Leptobotia curta</i>)</p>	<p>種の特徴：流れの緩やかなところを好む。水生昆虫類等の小動物を摂食している。</p> <p>分布域：日本固有種で近畿地方及び山陽地方の河川に生息する。</p> <p>減少要因：用水路のコンクリート化などによる生息環境の悪化や移動、繁殖の阻害が圧迫要因。また、密漁も更に個体数の減少をもたらしていると考えられる。</p>
<p>ムニンツツジ (<i>Rhododendron boninense</i>)</p>	<p>種の特徴：高さ2～3mの常緑低木。枝先の1個の花芽から2～3個の白い花をつける。</p> <p>分布域：小笠原諸島に生育する日本固有種。</p> <p>減少要因：早ばつ、台風など自然災害による生育環境の変化の他、フサダニの被害、強風による枝、幹の折損、雨による根の洗掘などの直接的な影響がある。花や小枝などの乱取が樹勢を弱めた原因の一つとなっている。</p>
<p>ムニンノボタン (<i>Melastoma tetramerum</i>)</p>	<p>種の特徴：高さ1m程度になる常緑小低木。花弁が4個、子房が4室で極めて珍しい形に変化した種。</p> <p>分布域：小笠原諸島に生育する日本固有種。</p> <p>減少要因：発芽時には日陰と湿潤を必要とし、生長すると日照を必要とするという一見矛盾した生育特性があり、干ばつ、風害などによって生育地の植被状況が変わるたびに生存を脅かされてきたものと考えられる。</p>
<p>アサヒエビネ (<i>Calanthe hattorii</i>)</p>	<p>種の特徴：葉は大きく長さ20～50cmになる多年生草本。高さ50～100cmの花茎を伸ばす。</p> <p>分布域：小笠原諸島に生育する日本固有種。</p> <p>減少要因：園芸目的のための盗掘が圧迫要因。外来種であるアフリカマイマイの食害を受けやすく、カイガラムシの付着も近年目立っている。</p>

ホシツルラン ( <i>Calanthe hoshii</i> )	種の特徴：常緑樹林に生育する多年性草本。 分布域：小笠原諸島に生育する日本固有種。 減少要因：園芸目的の採取と生育地の崩壊、外来種であるアフリカマイマイによる食害が圧迫要因。遺伝的な多様性の低さも問題。
シマホザキラン ( <i>Malaxis boninensis</i> )	種の特徴：高さ 15～25cm で長さ 5～10cm の葉を数枚つける多年生草本。 分布域：小笠原諸島に生育する日本固有種。 減少要因：外来種であるアフリカマイマイによる食害、周辺の木々の生長に伴う日照不足が圧迫要因。また、自然災害による生育地の崩壊や旱魃の恐れや、株が小さいためにヤギに踏まれてしまう危険性が指摘されている。
タイヨウフウトウカズラ ( <i>Piper postelsianum</i> )	種の特徴：高さ 1.5～2.0m になる直立性の多年生草本。雌雄異株。 分布域：小笠原諸島に生育する日本固有種。 減少要因：外来種であるアフリカマイマイやネズミによる食害の他、台風による生育地の崩壊や、生育地周辺の木々の生育による日照不足が圧迫要因。
コバトベラ ( <i>Pittosporum parvifolium</i> )	種の特徴：高さ 0.5～1.5m になる常緑小低木。雌雄異株。 分布域：小笠原諸島に生育する日本固有種。 減少要因：ネズミによる果実の食害や台風による生育地の崩壊による影響がある。個体数が少ないため、遺伝的な多様性の低さも問題。
ウラジロコムラサキ ( <i>Callicarpa parvifolia</i> )	種の特徴：高さ 1～2m の常緑小低木。雌雄異株。 分布域：小笠原諸島に生育する日本固有種。 減少要因：ヤギによる食害が最大の圧迫要因。また、開花株が少なく、発見された株には結実が見られないため、遺伝的な多様性の低さも問題。

(参考)

#### 国内希少野生動植物種

- ・ 我が国に生息・生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種であって、政令で定めるもの。
- ・ 捕獲・採取及び譲渡等を規制。
- ・ 現在 62 種であり、今回 11 種追加で 73 種となる。